



和賀正義 議員 (TSUNAGU)

しらおか味彩センターの 活性化を

答弁…魅力あふれる施設となるよう支援していく

問 しらおか味彩センターの基本方針は、農業や商業の活性化及び地産地消の拠点である。市民のニーズを取り入れた経営改善を求める。

また、農業の課題でもある後継者問題や遊休農地の増加の解決として、農業法人など新しい取組を検討してみてはいかがか。

答 現在、今後の経営や活性化などの取組について助言をいただく会議の設置に取り組んでおり、農業法人化は、この会議でテーマになり得ると考える。利用者や出荷者の声も参考にしながら、魅力あふれる施設となるよう、しらおか味彩センターを支援していく。



しらおか味彩センター

振興 白岡新春マラソン大会を元気に

答弁…あらゆる方法を検討し、よりよい大会を

問 市スポーツ協会加盟団体の人数は10年間で約500人減少している。高齢化も進むが、協会離れも進んでいる。マラソン大会の開催に向け、協力者の負担が懸念される中、今後について、早い準備や、予算の見直しなどの工夫や改善を求めるが、市の対応は。

答 市スポーツ協会の構成員が減少しているため、大会の継続的な実施に向け、運営協力者の確保は課題と捉えている。課題解決に向け、市民や団体の皆様や協賛いただける企業等、各界各層の協力のもと、あらゆる方法を検討し、よりよい大会を作り上げていく。



中山廣子 議員 (公明党)

AIアプリ 「コドマモ」の活用を

答弁…保護者への効果的な啓発を検討していく

問 愛知県警などが開発したAIアプリ「コドマモ」は、子どもがわいせつな自撮りを撮影、保存した際、AIが自動的に感知し、画像を削除するよう促す通知が表示され、保護者にも通知される。性犯罪の被害者にも加害者にもさせないために、周知・啓発しては。

答 現在、小中学校の保護者に対し、フィルタリングの設定や家庭で利用ルールを定めることの大切さなどが示された県教育委員会作成のリーフレットを发出している。今後は、近隣市町の取組や県の動向も注視し、保護者への効果的な啓発について検討を進めていく。



愛知県警などによる
「コドマモ」アプリの紹介チラシ

福祉 認知症の正しい理解と共生社会へ

答弁…認知症施策の確実な推進を図っていく

問 認知症を正しく理解し、発症してからでも尊厳を保ち、希望を持って住み続けられるまちの実現に向け、認知症ケアの技法「ユマニチュード※」の考え方を取り入れてはどうか。また、不意の事故に巻き込まれた際に、当事者、家族を守る損害賠償保険制度を導入しては。

答 ケアマネジャー研修や在宅医療・介護連携事業に係る研修等において専門職へのユマニチュードの普及・啓発を図っていく。認知症高齢者を対象とした賠償責任保険制度の導入は、国や県の財源措置がないため、市単独での実施は難しい。

※ユマニチュードとは、フランス語の造語で「人間らしくある」ことを意味する。「あなたのことを大切に思っている」ということを相手に伝えるための技術と、その実践のための考え方をいう。